

高校公民プリント（過去問類似）

西洋の近現代思想 No.6

名前

得点

/9

問1 「あれもこれも」という迷いの中で感性的快楽を追う段階から、道徳的義務を果たす段階を経て、最終的に「あれかこれか」の決断を迫られ、神の前に一人で立つことによって絶望を克服し、真の実存を回復すると説いたデンマークの思想家は誰か。

(2021年 全国公立入試 類似)

1. ニーチェ 2. ヤスパース 3. キルケゴール 4. ハイデッガー

問2 私的所有の発生が社会の不平等や対立を生むと考え、各人が自らの権利を共同体に全面的に譲渡して「一般意志」に従う社会契約を唱えた、18世紀フランスの思想家は誰か。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. ボダン 2. カント 3. ロック 4. ルソー

問3 ルネサンス期において、人間はあらかじめ固定された本性を持たず、自らの自由意志によって自己のあり方を決定できる存在であるとし、そこに人間の尊厳の根拠を求めたイタリアの思想家は誰か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. マルシリオ・フィチーノ 2. ジョルダノ・ブルーノ 3. ピコ・デラ・ミランドラ 4. ニッコロ・マキアヴェリ

問4 自らの社会的地位や能力、価値観などを一切知らない「無知のヴェール」に包まれた仮定の状況（原初状態）を想定し、そこでの合意を通じて、最も不遇な人々の境遇を改善する「格差原理」や、公正な機会の均等を満たす社会正義の原理を導き出した、アメリカの哲学者は誰か。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. サルトル 2. アレント 3. サンドル 4. ロールズ

問5 J.S.ミルは、最大多数 of 最大幸福を実現するための道徳的義務の根拠として、法律や世論による外的な規制だけでなく、他者の幸福を願う同情心や、社会の利益に反したときに生じる良心の呵責といった道徳感情を重視した。このような、自己の行為を内的に規制する道徳的な制裁を何というか。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 内面的制裁 2. 道徳的制裁 3. 外面的制裁 4. 物理的制裁

問6 リーアム・マーフィーとの共著『税と正義』において、課税前の所得が個人の絶対的な保有物であり、政府が課税によってそれを奪い取っているという見方を「神話」として批判した、アメリカの哲学者は誰か。彼は、個人の所有権は税制を含む社会制度の枠組みを通じて初めて定義されるものであると主張した。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. トマス・ネーゲル 2. マイケル・サンドル 3. ロバート・ノージック 4. ジョン・ロールズ

問7 功利主義が少数者の犠牲を容認しかねない点を批判し、1971年の著書で「公正としての正義」を提唱したアメリカの哲学者がいる。彼は、自身の立場や能力について何も知らない「無知のヴェール」に包まれた状態を想定し、そこから導かれる正義の原理として、最も不遇な立場にある人々の状況を最大限に改善する場合にのみ不平等を容認する原理などを主張した。この人物は誰か。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. アレント 2. ロールズ 3. ノージック 4. サンドル

問8 歴史の記述において、強者や勝者の都合による恣意的な取捨選択を排し、過去の犠牲者や忘れ去られようとしている事実を記録にとどめるべきだとする倫理的態度が議論される。これに関連して、第二次世界大戦後のドイツにおいて、戦争における自国民の責任を「刑法上の罪」「政治上の罪」「道徳上の罪」「形而上学的な罪」の4つに分類し、他者の苦痛や犠牲に対して生き残った者が負う精神的連帯の責任を直視することを説いた、実存主義の哲学者は誰か。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. アルベール・カミュ 2. アンリ・ベルクソン 3. マックス・ウェーバー 4. カール・ヤスパース

問9 デカルト以来の心身二元論を克服しようとし、人間の肉体は単に観察される物理的な対象（客体）であるにとどまらず、世界を知覚し経験する能動的な存在（主体）でもあるという「身体の両義性」を唱えた、フランスの現象学者は誰か。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. レヴィ=ストロース 2. ジャック・デリダ 3. メルロ=ポンティ 4. ジル・ドゥルーズ

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 3 キルケゴール	「あれかこれか」の選択を迫られる中で、主体的な真理を求めたデンマークの思想家である。彼はヘーゲルの客観的・体系的な哲学を批判し、個々の人間の具体的な生き方を重視する実存主義の先駆者となった。
問2	答え 4 ルソー	私的所有の発生を不平等の起源とし、共同体への権利譲渡と一般意志への服従を説いたのはルソーである。彼は『社会契約論』や『人間不平等起源論』を著し、直接民主制を志向する独自の社会契約説を展開して、後のフランス革命に大きな影響を与えた。
問3	答え 3 ピコ・デラ・ミランドラ	ルネサンス期のイタリアの哲学者である彼は、著書『人間の尊厳について』において、神が人間にのみ自由意志を与えたとし、人間は自らの選択によって天使のような高貴な存在にも、獣のような卑しい存在にもなり得ると主張して、人間の尊厳を説いた。
問4	答え 4 ロールズ	「無知のヴェール」という仮定の状況から、誰もが合意できる正義の原理を導き出そうとした。彼は、最も不遇な人々の利益を最大化する「格差原理」や「公正な機会均等原理」を提示し、福祉国家的な再分配を正当化する理論的基礎を築いた。
問5	答え 1 内面的制裁	J.S.ミルは、ベンサムが提示した法律や世論、宗教などによる「外的制裁」だけでは不十分であると考え、人間が本来持っている他者への同情や社会連帯の感情に基づく「内面的制裁（良心の制裁）」を重視した。彼は、教育や社会制度を通じてこの内面的な道德感情を育むことが、個人が自発的に社会全体の幸福に貢献するために不可欠であると主張した。
問6	答え 1 トマス・ネーゲル	リーアム・マーフィーとトマス・ネーゲルは、共同で著した『税と正義』の中で、課税前の所得が個人の絶対的な権利に属するという考え方を否定した。彼らによれば、所有権という権利自体が、税制や法制度などの社会制度が整備されて初めて法的に保障されるものであり、したがって税は個人から財産を奪うものではなく、所有権を構成するシステムの一部であるとされる。
問7	答え 2 ロールズ	功利主義に代わる正義の基準として、契約論的アプローチから「公正としての正義」を構想した。自らの属性が不明な「無知のヴェール」の仮定から、最も不遇な人々の状況を改善する場合にのみ不平等を認める「格差原理」などを導き出した。
問8	答え 4 カール・ヤスパース	第二次世界大戦後のドイツにおいて、戦争責任を多角的に分析したのがカール・ヤスパースである。彼は著書『罪の問い』の中で、戦争責任を4つに分類した。そのうち「形而上学的な罪」は、同胞や他者が不当に犠牲になっているにもかかわらず、自らが生き延びてしまったことに対する、人間としての連帯責任を指す。これは、過去の犠牲者の記憶を忘れずに引き受けるという歴史的倫理の態度と深く結びついている。
問9	答え 3 メルロ＝ポンティ	デカルト的な精神と身体を二分する二元論に対し、身体を主観（主体）と客観（客体）の両義的な存在として捉え直す身体論を展開した。彼は現象学的手法を用いて、知覚における身体の先駆的な役割を強調した。